

歴女がゆく

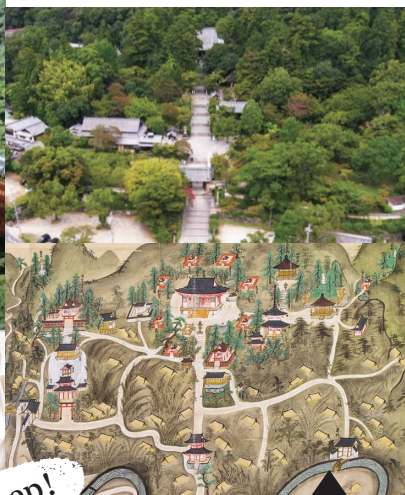
私が出逢ったディープな中世



観心寺境内

千年をこえる悠久の歴史を持ち、境内には、中世の文化遺産が数多く残ります。

今も配置が
ほぼ中世のまま



Deep!

ココが中世!

上の絵図は、中世の境内を記したもので、金堂や鎮守社などが色鮮やかに描かれています。また、僧坊や民家など多くの建物群が取り囲み、「一山寺院」と呼ばれる当時の景観が見て取れます。



当時のまま残り続けているとは思えない美しさ! 金堂の中には国宝である如意輪観音坐像が置かれています。



建掛塔

建掛塔はもともと3重の塔として建設予定だったと伝わっています。



鎮守社



模本院 (現在の建物は近世)

日本史では、平安時代後半から戦国時代を「中世」と呼んでいます。それまで全国を支配していた朝廷の力が弱まり、各地で軍事力をもつ「武士」が力を伸ばし、独自に領地を治めた時代です。

一方で、河内長野市域では、武士ではなく、観心寺や金剛寺といった寺院が地域を支配するケースもみられました。

観心寺は真言宗を開いた空海の弟子が整備した寺院です。中世の境内は今よりも広く、南側の川沿いのあたりまで広がっていたようです。最盛期には50を超える僧坊といわれる僧侶の住居が立ち並び、まるで街のような景観が広がっていたと考えられています。

南北朝時代には南朝方の拠点となり、後村上天皇は一時期、僧坊に仮の御所を営みました。死後は境内に葬られ、今は後村上天皇陵として宮内庁が管理しています。

今回の歴女 高橋りささん

観心寺を訪れるのは3回目ですが、毎回新しい発見があります。また、ここは北斗七星のお参りができる日本唯一のお寺です。マップに沿って山を少し登ると、寺全体を見渡することができるのも、楽しみ方のひとつです。



河内長野駅から南海バスに乗り、「観心寺」バス停下車▶午前9時～午後5時▶入山料 大人300円、小中学生100円

中世トリビア ① 一山寺院

観心寺のように領地を独自に支配し、政治拠点となった寺院を「一山寺院」と呼びます。このような寺院は近畿地方を中心に多くあり、時には武士勢力を圧倒しました。しかし、その政治的重要性がゆえに攻撃の対象ともなり、多くの一山寺院が滅失してしまいました。市域にある観心寺、金剛寺はこのような戦乱を生き抜いた稀有な寺院といえます。

